

支え合うきよせ委員会（清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体）

第2回 地域資源・ニーズ把握部会（A部会）記録

日時	平成29年6月30日（金）10時～12時	場所	情報労連東京福祉センター
出席者	内田部会長、田中副部会長、阿久津委員、小野委員、金川委員、田島委員、名古屋委員、福嶋委員 生活支援コーディネーター 鍵和田 事務局：小山部長、関口課長、吉村、上垣		

1 A部会の進め方について

(1) 1年間の進め方（確認）

超高齢社会の現状や今日までの支え合うきよせ委員会の取り組みを振り返り、協議体や部会の設置目的について確認。

資料：『「支え合うきよせ委員会」地域資源・ニーズ把握部会（A部会）の1年間の進め方【案】』（内田部会長提案）

(2) その他確認事項

・部会の名称について

部会の名称はA部会と省略せず、「地域資源・ニーズ把握部会（A部会）」と表記する。

・記録の作成について

記録は書記（コーディネーター及び副部会長）が作成し、議論の内容は本会議にて報告する。

・支え合いバックアップ（B部会）への参加について

各部会に部会長が参加するかどうかは、内田部会長と柳原部会長との相談により判断する。但し、大人数の参加は、部会に分けた意味が失せるため、適宜相談とする。

・部会の開催について

部会は月に1回程度、第2・4金曜日を候補に情報労連東京福祉センター（以下、「友遊」）にて行う。また、会場として、市内福祉施設等も活用する。

部会開催の際には、開催場所の変更などの有無に関わらず、開催の案内を事前連絡する。

友遊の配慮により、友遊で部会を開催する際には、バスを無料で利用できる。

（8月の開催日についても臨時便あり。）

※なお、交通費の支払については想定していないためご了承ください。

※移動手段の確保が困難な場合には市へご相談ください。

・他市関係者の部会への参加について

他市の関係者による見学の打診については、適宜受け入れる。

2 地域団体との意見交換会について

(1) 進め方、意見交換する団体について（資料2）

・今回の訪問については個別の訪問ではなく、地域毎にいくつかの団体を呼んでの集合方式とする。

・意見交換会を行う団体の対象には社会福祉法人やNPO法人は含まず、自治会やサロン、老人会などの地域で活動をしている団体とする。

・7月～8月に実施する地域や場所、団体、出席委員などについては具体化が必要であり、以下の意見を踏まえ、内田部会長、事務局で詳細を調整する。

➤ 参加者数は10名に限定する必要はない。1団体から参加する人数や部会の委員の人数など、柔軟に考えて調整する。

- 住民の困りごとを知っている存在として、民生委員にも声をかけて欲しい。ただし、内容によっては個人情報に触れる場合もあるため、話がしづらいこともある。オブザーバーとしての参加などの配慮が必要な可能性もある。
- 意見交換会については、現状の把握に力をいれるべき。地域のつながりの有無について現段階ではこだわる必要はない。意見交換をする地域を先日訪問した柏原地区のように盛り上げていくためにはどのようにすればいいかを考えていけばいい。場合によってはシルバー人材センターや地域の団体を紹介し、困り事や課題の解決につながることもあると思う。
- 旭が丘の地区では、老人クラブ、自治会、地区福祉員などがみんなバラバラに活動をしている。団体の数をあまり多くしすぎると日程の調整が困難になると思う。かといって、「たすけあい旭」など一つの団体を対象にはしないと、前回の部会で確認をしている。例えば、旭が丘で開催をするとしても、丁目や号棟などのイメージをもう少し固める必要があるのではないか。
- 旭が丘団地集会室などで意見交換会を行うと、団地在住ではないがその地域で生活をしている人が入りづらい可能性もある。地域などを選定する際には配慮する必要がある。
- 自宅を開放してサロンを行っていて、困りごとを聞いてほしいと言っている方が中清戸にいる。意見交換会の候補先に加えてほしい。

3 2層生活支援 CO について

(1) 生活支援コーディネーターに期待する役割について

- ・事務局より、10月～第2層生活支援コーディネーターを配置するにあたり、8月中旬までに仕様書を確定するため、委員の意見を聞きたいと説明があり、意見交換を行った。また、B部会の打合せで出された意見について、資料1を用いて報告があった。
- ・以下の意見をふまえ、7/28に第三回目の部会を開催する際に、本日の意見を踏まえてたたき台を示し、最終的に市として仕様書を作成する。
- ・資料：『平成29年度清瀬市生活支援コーディネーター（第2層）に関する質問・意見等』（内田部会長提案）
 - ここに行ったら必ず会えるという場所があるといい。4人の生活支援コーディネーターのうちの誰かが必ずその場所において、相談に乗ってもらえることができる。
 - コーディネーターは頻繁にあって、それぞれの地域に散るような仕組みが必要ではないか。各包括支援センター内で孤立しないか心配である。
 - 立ち上げのときに、立上に一緒に協力してくれる人を紹介してくれる仕組みが欲しい。
 - 生活支援コーディネーターが地域包括支援センターに配置されることになっているが、どのような業務を行うのか、2層の生活支援コーディネーター同士の連携方法がどのように行われるのかなど、イメージがわからないところがあり、受け入れる包括支援センター側としては困惑している。
 - 社会福祉士に限定せず、地域について熟知した「住民で（高齢の）コーディネーター」も選択肢に入れてはどうか。

4 今後の予定

(1) 次回部会開催日程

- ・ 7月28日（金）13時～16時、8月17日（木）13時～16時

(2) 地域団体との意見交換会日程

- ・ 団体ごとに調整（旭が丘地区については8月以降の希望あり）

(3) 本会・部会

- ・ 8/24（木）13時半～15時半 コミュニティプラザひまわり